

中期計画と第1－1期の活動計画

重点分野1：大学拡充計画の推進						
<p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【基本方針:6】 新学部や附属病院の進展を検討</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療・福祉の総合大学化の完成 2. 大学の発展と更なる進歩を目指す 3. 附属病院の健全運営の取組と新たな分野への発展の取組 4. 新学科等増設に伴う施設整備計画の検討及び実行 5. 計画的な施設整備による安全安心の環境確保 						
<p>責任者:鈴木秀幸(法人事務局長)</p> <p>分担者:山口えり子(企画広報課長)、宮崎和裕(管財課長)、向井正治(医療福祉事業管理室)、清水計雄(医療福祉事業担当課長)</p> <p>事務局:企画広報課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.	→					→
中期計画 5.	→					→
2021年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 医療・福祉の総合大学化の完成	<p>①2022年4月保健衛生学部救急救命学科を設置するため、文部科学省および関係省庁と調整を図り申請業務を遂行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆文部科学省へ2021年3月収容定員関係学則変更認可申請書提出、2021年4月学科設置届出申請書提出、厚生労働省へ2021年5月科目読替え書類提出 ◆設置の認可後速やかに学内に周知し、学生の受入準備を加速させるとともに、記者会見を開催し当大学のプレゼンスを向上させる <p>②医療・福祉の総合大学として、学部、学科、専攻の更なる充実を図り、社会のニーズに適応した学部学科等の新設、再編について検討、推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆他の医療系大学の学部、学科組織の動向、社会のニーズ等を継続的にウォッチし、適応した学部、学科等の新設、再編に即時対応できるよう体制を整える 					

2. 大学の発展と更なる進歩を目指す	①医療・福祉以外の分野の学部創設の可能性について検討する。
3. 附属病院の健全運営の取組と新たな分野への発展の取組	<p>①桜の森病院の経営健全化のため、ISO 認証取得 ◆2021年8月第一次審査、9月第二次審査、10月後半～11月頃取得予定</p> <p>②鈴鹿市医師会に正会員として加入 ◆2021年6月加入</p> <p>③鈴鹿地域医療構想調整会議への参画 ◆2021年度内に「桜の森病院」として正式に参画</p> <p>④三重県内主要病院との関係強化 ◆三重県内主要病院の地域連携室への定期訪問(3カ月に1回)による情報発信・情報収集に努め関係強化を図る</p> <p>⑤鈴鹿市、亀山市内の診療所との関係強化 ◆鈴鹿市…医師会の「在宅支援診療所登録医」への出席(毎月1回)による情報発信・情報収集に努め関係強化を図る ◆亀山市…亀山市立医療センター・三重在宅クリニックへの定期訪問(3カ月に1回)による情報発信・情報収集に努め関係強化を図る</p> <p>⑥新たな分野への発展の具体方策の検討</p> <p>⑦国・県の地域医療構想推進支援策の研究</p>
4. 新学科等増設に伴う施設整備計画の検討及び実行	<p>①救急救命学科導入に伴う施設整備 (2021年度) ◆白子コミュニティハウス改修により実習室等設置 (2021年11月) ◆白子3号館に新規雇用教員の研究室3室確保 (2021年11月)</p> <p>②新築又は増築も含めた施設計画 ◆新学科の構想がある場合には、速やかに新学科増設による増築又は新築を検討する</p>
5. 計画的な施設整備による安全安心の環境確保	<p>①中期施設整備計画の策定 (外壁、防水、建築設備) ◆千代崎キャンパス、白子キャンパス内施設の中長期整備計画の見直し (2021年10月) ◆前述中長期計画から緊急性及び重要性を考慮した次年度整備に向けた予算作成 (2022年1月)</p> <p>②法令改正等への遵守 (耐震、防災等) ◆施設内における二次部材 (特定天井) 耐震対策提案作成 (2021年12月) ◆照明の更改 (LED化) 計画の作成 (2021年12月) ◆学内バリアフリーの見直しおよび計画の作成 (2021年12月)</p> <p>③新たな脅威 (コロナ等) への対応 (換気、リモート環境) ◆換気対策の見える化 (網戸、CO2 センサー導入等) 検討 (2021年11月) ◆ICTを利用した新講義実施による施設整備 (2021年9月)</p>

中期計画と第1－1期の活動計画

重点分野2：大学広報の強化と入学者受け入れの改善						
<p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【基本方針:6】 新学部や附属病院の進展を検討</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 広報活動の強化および大学ブランド力を向上させる情報発信 2. 本学の強みや特色・教育・研究・社会貢献についてのパブリシティを高めるため、報道機関との連携強化 3. 学生募集体制の強化と選抜制度の見直し（全学部・全学科の定員充足） 4. ディプロマを明確にした広報活動の展開 5. 高大接続を意識した社会貢献活動の推進 						
<p>責任者: 森下芳孝（学生・社会貢献担当副学長） 分担者: 小山尚樹（入学課長）、山口えり子（企画広報課長） 事務局: 入学課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.	→					→
中期計画 5.	→					→
2021年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 広報活動の強化および大学ブランド力を向上させる情報発信	<p>①広報内容について、各組織（学部学科）や部署との相互連携を図り情報収集と共有を行う。</p> <p>②大学の取り組み、教育や研究の成果、社会貢献活動などの内容を積極的に発信する。</p> <p>(1) 大学ホームページの充実化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学ホームページの管理運営、見直し改善 ・ 新着情報発信への迅速な対応 ・ What's new の情報更新（随時） ・ 救急救命学科 特設サイトの公開（2021年6月） <p>(2) 公式 SNS の運用を強化する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS の特性を活かした配信の検討と実施（配信数前年度比+10%以上を目標） ・ 友だち登録やフォローの促進方法の検討 <p>(3) 紙媒体、動画、交通広告、新聞、メディア広告などを利用した情報発信をする</p>					

	<ul style="list-style-type: none"> ・「SUMS News」の発行 ・交通広告の利用 <ul style="list-style-type: none"> ◆駅看板のデザインリニューアル（2022年3月） ・新聞やメディア広告の有効的な利用 ・大学紹介動画への内容追加の検討（2021年10月） <p>③大学ポータルサイトへの継続参画を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の教育情報に関する情報公開の充実を図る <ul style="list-style-type: none"> ◆一斉更新…2021年7月、以降新情報は随時更新
<p>2. 本学の強みや特色・教育・研究・社会貢献についてのパブリシティを高めるため、報道機関との連携強化</p>	<p>①パブリシティ機会の獲得に有効な情報発信に注力し、新聞・テレビ・ラジオなどマスメディアを利用したプレスリリースや広報活動を積極的に行う（プレスリリース前年度比+10%以上を目標）</p> <p>②マスコミとの信頼関係を構築し、ネットワークを広げる。</p>
<p>3. 学生募集体制の強化と選抜制度の見直し（全学部・全学科の定員充足）</p>	<p>①2021年度入試において定員が未充足である学科（専攻）への広報活動の比重を高くする。</p> <p>②早期により優秀な学生の確保を実現するため、学校推薦型選抜の改善を進める。</p> <p>③現状分析により、大学入学共通テストを利用する選抜方式の内容（利用方法等）を見直す。また学外試験会場の設置都市の見直しも行う。</p>
<p>4. ディプロマを明確にした広報活動の展開</p>	<p>①ディプロマから想定される各学科が入学前に求める具体的能力（高校での履修内容・レベル）を明確化する（アドミッションポリシーをより明瞭にし、入学後の学力不足の解消を目指す）。</p> <p>②卒業後の進路・資格をこれまで以上にアピールし医療・健康・福祉系大学としての、強みを全面に出した広報を展開する。</p>
<p>5. 高大接続を意識した社会貢献活動の推進</p>	<p>①高大連携協定校（5校）との定期的な協議を行い、これまで以上の連携強化を進める。</p> <p>②各高校内で導入が増えている「学問探求活動」「キャリア教育」への医療系大学としてサポートを積極的に行い、本学の教育内容への理解を促進する。</p> <p>③本学において県内高校生を対象とした2つのイベント（科学オリンピック・みえ探求フォーラム）の開催・後援を進めることにより、意識の高い高校生（高校教員）の本学に対する認知度・理解度を深める。</p>

中期計画と第1 - 1期の活動計画

重点分野3：教育内容の充実						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 修業年限内に全員卒業、国家試験や資格試験の全員合格に向けた「SUMS方式学修支援方法（トコトンできるまで教育）」の樹立及び遂行とその検証 2. 数理・データサイエンス（統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能）など今後の社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用力を備えた人材を育成するカリキュラムの全学的編成とそれらを展開する教育体制の確立 3. 学修者の能動的な学修を支えるための学修支援システムの更なる拡充及び学修成果の可視化による学修者自身の自学自習や就職活動に有用な仕組みの構築 4. 医療人底力教育と多職種連携教育の拡充・発展のための全学的な視点に立つ学科・施設横断型カリキュラムの再構築とその実践 						
<p>責任者:片山直之（教務・教育改革担当副学長） 分担者:福田八寿絵（底力教育センター長）、田口博明（FD推進委員長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局:教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→ SUMS方式学修支援 方法の樹立		SUMS方式学修支援方法の遂行とその検証			→
中期計画 2.	→ 数理・データサイエ ンスに関する人材育成 カリキュラムを全学 的に編成		数理・データサイエンスに関する人材育成カリキュラムを展開す る教育体制の確立			→
中期計画 3.	→ 学修支援システムの拡充と学修成果の可視化		学修者自身が自学自習や就職活動に学修支援システムを役立てる 仕組みの構築			→
中期計画 4.	→ 新設学科及び大学附属桜の森病院を加えた横断型カリキュラムの作 成			→ 新教育システムの再構築とその実践		→
2021年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 修業年限内に全員卒業、国家試験や資格試験の全員合格に向けた「SUMS方式学修支援方法（トコトンできるまで教育）」の樹立及び遂行とその検証	<p>教育改革委員会、教育質保証委員会、教務委員会、FD推進委員会の連携による学修者本位の教育の改善と各学科の教育の質向上を図る「SUMS方式学修支援方法（トコトンできるまで教育）」の樹立</p> <p>① 本学教育の基本的方向性と具体的施策の立案とその実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆教育改革委員会に加えて各学科及び全学共通分野の教育質保証委員会と連携し、学生の学力を担保しつつ、留年・休学・退学する学生を最大限に少なくする「SUMS方式学修支援方法（トコトンできるまで教育）」を樹立する。 ◆教務委員会は、教育改革委員会の意向を具体化し、各学科との調整を図りながら、実行に移すための対策を進める。 <p>② FD推進委員会による教員意識の改革と授業改善の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆教員のコロナ禍及びコロナ禍後の新しい生活様式においても対応可能なICT (Information and Communication Technology) を活用した双方向型授業を含めた教育形態を推進する能力の向上を図るために、年2回以上のFD研修会・講習会を開催する。 					

	<ul style="list-style-type: none"> ◆学生による授業評価を教育改善に役立てるために、学生参加型のFD推進委員会を年1回以上開催する。 ◆本学FD活動を他の大学・短大等にも広報し、連携を図ることによって、授業改善の相乗効果を生み出すための教育・教務に関わる講演会を少なくとも年1回以上開催する。 <p>③ 学習支援システムの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学科の専門性に合わせた基礎学力養成教育を意識したリメディアル教育の実施を支援する組織の設置を企画する。 ◆遠隔会議システム Zoom または動画などを利用した反転授業用教材を事前学習や事後学習に役立てるために、各学科あるいは全学共通分野において1科目以上での教材の作成とそれらの授業への導入を計画する。 ◆学修支援システムを用いた自学自習・演習の活用例を、learningBox などを用いて作成し、各学科あるいは全学共通分野において1科目以上での導入を計画する。 ◆FD推進委員会の下部組織として設置された LMS (Learning Management System) 研究部会では、授業改善への取り組みとして、教員のためのマニュアルの作成および授業改善の成功の具体的例示等を学習支援システムで活用できるように計画する。
<p>2. 数理・データサイエンス(統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能)など今後の社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用能力を備えた人材を育成するカリキュラムの全学的編成とそれらを展開する教育体制の確立</p>	<p>数理・データサイエンス教育の始動に向けての教育体制の整備</p> <p>① 数理・データサイエンス教育の全学的な体制作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆全学的な標準カリキュラムの設置を検討し、「数理・データサイエンス(統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能)」など今後の社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用能力を育成する科目の全学部での開講を企画する。 ◆数理・データサイエンスと社会とのつながりについてのFD講演会を年1回以上開催する。 ◆Society5.0を視野に入れ、学生一人ひとりの興味や関心を引き出すための多様な学びの場を目的とし、数理・データサイエンス教育の向上に向けた自学自習・演習の仕組みを構築する。
<p>3. 学修者の能動的な学修を支えるための学修支援システムの更なる拡充及び学修成果の可視化による学修者自身の自学自習や就職活動に有用な仕組みの構築</p>	<p>学修者本位の教育として、学生が「学修」する者としての責任と覚悟に気付き、能動的に学習できる体制を構築</p> <p>① 学修支援システムの拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆eラーニングを含めた学修支援システムを最大限に利用した自学自習・演習などを各学科独自あるいは全学共通分野の授業へ普及させることを目指す。 ◆教員が、SUMS-POを活用して学生の学修成果を共有できる仕組みの構築を企画する。 <p>② IR推進室による分析データの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆各学科・専攻のIR担当教員が抽出した成績不振学生などのデータに基づいて、各学科・専攻の教育質保証委員会は教育改善及び指導体制について方針を立て、それらを実施する体制を構築する。特に、1年生早期のデータを参考に個別指導が必要な学生を抽出し、当該学生への継続的な支援を行うことができる方策を企画する。 ◆学生の学修時間の状況調査や意識調査の集計結果に関する情報を本学ホームページにて公表し、それらを活用できる体制を模索する。 <p>③ 学修者本位の教育として、一人ひとりの学生が「何を学び、何を身に付けたのか」を評価検証する教育質保証を実践するための学生本人による学修ポートフォリオなど可視化された学修成果の確認と、その活用の考案</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆下記の学修支援を組み合わせて活用する方法を企画する。 <ul style="list-style-type: none"> ・学修ポートフォリオの充実による学生自身の成長の確認 ・ルーブリックの活用により教育内容の共通化

	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマップを活用し、ディプロマ・ポリシーの到達に向けた確認 ・ディプロマサプレメントの交付による卒業時の学修成果の客観的な可視化 ◆学生自身がディプロマ・ポリシーにどれくらい近づけたかを確認できることが、学修成果の可視化の目的であり、確認したデータに基づいて学生自身が入学後の自身の成長を知り、その後の学修計画に活用できる仕組みを樹立する。 ◆教育目標について、卒業時に学生による学習到達度の自己評価を調査し、その結果を本学ホームページに公表し、大学として教育成果を確認し、教育改善に繋げる仕組みを構築する。 ④ 卒業後アンケート調査結果等とそれらの活用 ◆卒業生の就職先等の進路先による調査を施行し、調査内容及び調査結果について公表するとともに、調査結果等を教育改善に反映させる体制の構築を企画する。
<p>4. 医療人底力教育と多職種連携教育の拡充・発展のための全学的な視点に立つ学科・施設横断型のカリキュラムの再構築とその実践</p>	<p>入学前教育、初年次教育、専門教育の連携の強化により、専門教育の土台となる知識・技能・態度を総合的に涵養する教育体制の整備</p> <p>① 医療人底力教育の再構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆総合的な授業編成が特徴である医療人底力教育は、特に1年生の「医療人底力実践」を全学必修科目とし、学科横断型の柔軟な姿勢・思考方法を身につけさせることを目指している。また、医療・福祉系総合大学である本学の特色を活かし、多様性ある幅広いカリキュラムを4年間一貫教育として実施している。2022年度設置される新設学科（救急救命学科）や2021年開設された大学附属桜の森病院との協力体制を図る統合的カリキュラムを企画し、再構築する。 ◆実社会の課題解決に生かせる能力を養うため、底力教育に数理・データサイエンスの要素も組み入れ、専門分野横断的なSTEAM教育を導入する。 <p>② 高いレベルの学力と総合力を培うための教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆上級生向け実践的応用編である「多職種連携教育」を充実させ、大学附属桜の森病院と連携し、社会の求める高いレベルの医療人教育を企画する（緩和ケア実習検討部会）。 ◆現在実施中の事例と実践で学ぶ多職種連携教育を各学科・専攻の専門性を生かせるような内容へと進化させ、全学科の学生が履修可能な体制を整備することで、医療人としての総合力を養う一貫教育を企画する。 ◆新設学科や桜の森病院との連携を含め、本学独自の魅力ある教育改善策を企画・立案する。 <p>③ 資格試験を意識した入学前教育、初年次教育、専門教育システムの連携協力体制の再構築とその実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆新入生プレイスメントテストの見直しを行い、基礎学力の不足する学生を一層早期に発見・抽出し、各学科と連携したケアと各学科の専門教育充実につながる初年次リメディアル教育の体制づくりを企画する。

中期計画と第 1 - 1 期の活動計画

重点分野 4 : 学生支援の強化						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国家試験の標準修業年限内合格率 100%を目指し、きめ細かい指導方法の確立と実施。 2. 就職率 100%を目指し、医療機関に加え就職先として民間企業への就職支援の充実。 3. 学生アンケート調査結果も踏まえ学生支援体制を強化し、面倒見の良い大学を実践する。 4. 学友会やクラブ活動・ボランティア活動を支援し、チームワークや自主性を育てる 						
<p>責任者: 森下芳孝 (学生・社会貢献担当副学長)</p> <p>分担者: 岩崎泰正 (健康管理センター長)、大井一弥 (国家試験対策委員会副委員長)</p> <p style="padding-left: 20px;">綾野真理 (学生相談室室長)、大塚紀寿 (就職・キャリア支援課長)、勝田能成 (学生課長)、</p> <p style="padding-left: 20px;">田中宏治 (白子学生・就職課長)</p> <p>事務局: 学生課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	—					→
中期計画 2.	—					→
中期計画 3.	—					→
中期計画 4.	—					→
2021 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 国家試験の標準修業年限内合格率 100%を目指し、きめ細かい指導方法の確立と実施	<p>①本学の教育理念である「知性と人間性を兼ね備えた医療・福祉スペシャリストの育成」を実践し、教育体制構築に向けて取り組む。目標達成に必要な行動計画の企画立案と施策実施をする。</p> <p>◆計画の進捗状況については各担当教職員で構成される国家試験対策委員会で課題共有や有益な施策共有など進捗状況を把握し課題解決に取り組む。</p>					
2. 就職率 100%を目指し、医療機関に加え就職先として民間企業への就職支援の充実	<p>①本学の「教育方針 2021」にある「面倒見の良い、魅力ある大学」を目指し、卒業後の進学・就職支援体制構築に向けて就職希望者に対しての就職率 100%を目標とする。</p> <p>目標達成に必要な行動計画の企画立案と支援体制を整え、施策実施状況については、各担当教職員で構成される就職委員会で進捗状況を把握し運営していく。</p> <p>◆就職支援の取り組みとして、学科単位で開催する年間就職ガイダンスに加え、進路就職相談の個別対応については対面方式の対応と WEB による遠隔オンライン方式を活用して対応</p>					

	<p>していく。</p> <p>②薬学部5年次生を対象とした学内合同企業説明会の実施 病院・薬局・製薬メーカー・官公庁など幅広い業界の法人様に参加いただき、オンライン等を活用して情報発信を行う。</p> <p>③薬学部1～6年次生を対象とした学内個別企業説明会の実施 薬剤師が活躍できる業界を知り、目指す薬剤師に対する意識向上に繋げることを目標とし、オンライン等を活用して企業研究の場とする。</p> <p>④看護学部1～3年次生を対象としたマナー講座の実施 低学年からマナーに対する意識付けをし、実習において実践することで、医療人としてのマナーを身に付ける。</p> <p>⑤看護学部3年生を対象とした三重県厚生農業協同組合連合会の病院説明会の実施 就職ガイダンスの一環として、病院研究を目的としJA三重厚生連に所属する病院の看護部長及び卒業生による病院説明会を実施する。三重県の病院への就職率を向上させる。</p>
<p>3. 学生アンケート調査結果も踏まえ学生支援体制を強化し、面倒見の良い大学を実践する</p>	<p>【学生課】</p> <p>①学生満足度を経年で比較・評価できる指標を用いて、満足度の向上を目指す中で、学生から汲み上げた意見・要望を実際の学生支援に反映させていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生満足度調査を実施する。 ・在学生アンケートを実施する。(意見・要望の集約) ・卒業生アンケートを実施する。 ・学友会組織との意見交換会を実施する。 ・学長と学生との意見交換会を実施する。 <p>②福利厚生施設、学内環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動 及び、通学路における交通指導の実施 ・学生食堂・売店との意見交換会を実施する。 ・障がい学生に対応した学内環境を整備する。 <p>【健康管理センター】</p> <p>③健康診断を円滑に実施し、学生の健康状態のスクリーニングを行い、所見のある学生には保健指導や再検査の実施および医療機関紹介等の支援を行う。</p> <p>④全学部生を対象にUPIを実施し、精神的健康度のスクリーニングを行い、その結果をもとに学生相談室と連携して面談を行う。</p> <p>⑤メンタルヘルス上の問題を抱えている学生に対して、学生相談室の予約等、随時対応する。</p>

	<p>⑥感染症の予防および修学に必要な抗体検査（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎、B型肝炎）を円滑に実施する。</p> <p>⑦抗体価低値の学生には、学外実習における感染のリスクを予防するため、ワクチン接種の勧告を行う。 （健康管理センター・白子保健室）</p> <p>⑧各々の施設が管轄する学生に対し、病気やケガなど健康上の問題点への迅速な対応、ならびに適切な処置を行う。</p> <p>【学生相談室】</p> <p>⑨学生相談体制の向上（前年度の分析結果をもとに行う）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における学生の多様なニーズに対応するため、従来の対面方式による相談だけでなく、それ以外の方法（メール、電話、zoom等による遠隔の相談）を活用し、相談活動を行う。 ・メンタルヘルスに関する情報発信、ピアサポート活動を念頭においた仲間づくりのための活動を企画・運営し、学生の心理面のサポートを行う。 ・教職員を対象に学生指導に役立つ情報の発信を行うと共に、メンタル面に問題を抱える学生への早期介入を行い、留年、不本意な休学・退学に陥る学生の減少を目指し、教職員との連携強化を図る。 <p>【医療栄養学科】</p> <p>⑩学生への栄養及び食生活指導による健康管理への介入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の結果から栄養不良（低栄養及び過栄養）の状態に該当する学生への栄養相談及び指導体制の充実 ・上記に該当する学生への継続的な栄養相談及び指導体制の充実 ・大学生の食生活に関する食生活についての情報提供の充実
<p>4. 学友会やクラブ活動・ボランティア活動を支援し、チームワークや自主性を育てる</p>	<p>①学友会、クラブ・サークル活動を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学友会組織の継続的支援を行う。 ・クラブ・サークル活動の継続的支援を行う。 <p>②SUMS ポイント制度の周知 及び、取得促進に向けた取り組みを実施する。</p> <p>③学生のボランティア活動への積極的参加を促す取り組みを実施する。</p> <p>④学生・教職員が積極的に社会貢献・地域貢献活動へ参加できるよう支援する。</p>

中期計画と第1－1期の活動計画

重点分野5：教職員の育成と人材確保						
<p>【基本方針:4】 教職員の資質向上</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SD研修会の実施や各種外部研修会の参加により、事務職員全体および大学執行部の教員の大学運営に必要な能力の向上を図る仕組みづくりを構築する。 2. 教職員評価において、教職員個々が業務遂行のための目標設定を行い、その目標を達成させるための仕組みづくりを検討する。 3. 他の大学等と協同で、FD/SD研修会を定期的に開催する。 						
<p>責任者: 豊田学長 分担者: 鈴木秀幸 (法人事務局長)、村田尚久 (大学事務局長)、矢田智樹 (人事・厚生課長) 事務局: 人事・厚生課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	—					→
中期計画 2.	—					→
中期計画 3.	—					→
2021年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. SD研修会の実施や各種外部研修会の参加により、事務職員全体および大学執行部の教員の大学運営に必要な能力の向上を図る仕組みづくりを構築する。	<ol style="list-style-type: none"> ① 専門的知識や業務遂行能力を向上させる研修会を開催する。 ② 研修会等に参加した教職員により、その研修内容を関係部署へフィードバックさせる仕組みづくりを検討する。 (2022年3月迄) 					
2. 教職員評価において、教職員個々が業務遂行のための目標設定を行い、その目標を達成させるための仕組みづくりを検討する	<ol style="list-style-type: none"> ① 教員評価について、現在の評価方法の内容・方針について検証し、課題の抽出と目標を達成させるための改善を提案する。 ② 改善案を実行し、その結果を検証する。 ③ 職員評価の目標設定及び進捗状況について、考課者と職員が面談を重ねることにより職員の目標達成に取り組む。 					
3. 他の大学等と協同で、FD/SD研修会を定期的に開催する	<ol style="list-style-type: none"> ① 教育・教務に関わる講演会活動等について、他の大学・短大等にも広報し、連携を図ることによって、大学運営の相乗効果を生み出すための講演会を少なくとも年1回以上開催する。 					

中期計画と第1－1期の活動計画

重点分野6：研究活動の活性化を通じた社会貢献						
<p>【基本方針:3】 本学の特色を生かした研究を通じての社会貢献</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋医学と東洋医学の知識と技術（代替医療）を融合した統合医療研究を推進するための研究活動への資源配分 2. 地域医療に貢献できる独創的な研究を進めるための研究環境の整備 3. 学内共同研究の推進と研究指導者の育成 4. 研究活動推進のための外部資金の獲得 5. 研究倫理の確立と厳正な運用 6. 産学官連携研究活動の推進 						
責任者:鈴木宏治（大学院・研究担当副学長、社会連携研究センター長） 分担者:葛原茂樹（医療科学研究科長）、飯田靖彦（薬学研究科長）、長谷川誠仁（大学院課長）、 真弓 昭（研究振興課長） 事務局:大学院課、研究振興課						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.	→					→
中期計画 5.	→					→
中期計画 6.	→					→
2021年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 西洋医学と東洋医学の知識と技術（代替医療）を融合した統合医療研究を推進するための研究活動への資源配分	①統合医療研究を本学の特色とするための検討 ◆統合医療研究を本学の特色として打ち出せる方法等について討議し、今年度中に具体的方策をまとめる。 ②統合医療に関する研究を推進する資源配分の検討 ◆統合医療研究を推進するため学内研究助成金等の資源配分について検討する。					
2. 地域医療に貢献できる独創的な研究を進めるための研究環境の整備	①研究環境の整備と適切な運営・管理 ◆今年度中に全教員及び学生（学部生は最終学年次生、大学院生は全学年）を対象とした研究環境に関する満足度調査を実施する。 ◆今年度中に「研究実施委員会」と「社会連携研究センタ					

	<p>一運営委員会」を統合し、研究と社会連携に関する全般事項を検討する委員会として再編する。</p>
<p>3. 学内共同研究の推進と研究指導者の育成</p>	<p>① 社会人、特に本学卒業生の大学院入学促進を目的とした広報活動、情報提供の強化（同窓会を利用して大学院の情報を流すなど新たな情報提供の場を設ける。）</p> <p>② 大学院兼担教員の増員による全学的な研究指導体制の構築（年度内に3名以上を増員する。）</p> <p>③ 医療科学研究科の兼担教員における博士の学位取得の奨励（学位取得手段を具体化する。）</p> <p>④ 学内研究助成金の創設による学部学科横断的な共同研究の推進（本計画1-②で挙げており、場合によっては一緒に行う。資金的根拠を具体化する。）</p>
<p>4. 研究活動推進のための外部資金の獲得</p>	<p>① 科研費等の競争的外部資金を獲得するための具体的方策の取り組み</p> <p>◆ 科研費の応募説明会開催時に採択経験豊富な教員から採択されやすい計画書の作成について講義して頂く。</p> <p>◆ 民間企業等から公募案内のあった研究補助金について全教員にメーリングリストで周知する。</p> <p>② ホームページで教員の研究成果や取組事例の紹介</p> <p>◆ 今年度中にホームページを改定し、科研費の採択教員名及び課題の公表、教員の研究成果や取組事例を紹介するページを開設する。</p>
<p>5. 研究倫理の確立と厳正な運用</p>	<p>① 研究倫理に関する体制整備</p> <p>◆ 今年度中に研究倫理に関する諸規程を作成する。</p> <p>② 研究倫理の厳正な運用</p> <p>◆ 「研究倫理に関する研修会」の次年度開催に向けて、今年度中に準備を進める。</p>
<p>6. 産学官連携研究活動の推進</p>	<p>① ホームページで教員の産学官連携研究活動の成果や取組事例の紹介</p> <p>◆ 今年度中にホームページを改定し、教員の研究成果や取組事例を紹介するページを開設する。</p> <p>② 外部の産学官連携活動への参加による学内の研究活動情報の積極的発信</p> <p>◆ 国立研究開発法人・科学技術振興機構が主催するイノベーション・ジャパン等に参加し、学内の研究成果を積極的に発信する。</p> <p>◆ みえメディカルバレー構想、みえLIPの活動に参加し、学内の研究成果を積極的に発信する。</p>

	<ul style="list-style-type: none">◆SUZUKA 産学官交流会の活動に参加し、学内の研究成果を積極的に発信する。◆三重大学との包括的連携協定に基づき、両校間の共同研究を推進する。◆鈴鹿工業高等専門学校との学術協定に基づき、医工連携研究会を年度内に2回開催し、両校間の共同研究を推進する。◆鈴鹿病態薬学研究会を年度内に1回以上開催し、学外研究者との交流を推進する。◆学内の研究成果等について、企画広報課と連携して社会的メディア（新聞・テレビ・ラジオ等）を活用した情報発信に努める。
--	--

中期計画と第1－1期の活動計画

重点分野7：国際交流の推進						
<p>【基本方針:2】 留学生の確保</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 留学生受入れのための体制づくりのための調査研究 2. 留学生の受入れから管理全般を担当する専門部署の設置検討 3. 中期計画1、2を踏まえた事業の実施 4. 学科単位での学生の海外体験の機会の拡充 						
<p>責任者:葛原茂樹(医療科学研究科長)</p> <p>分担者:高木久代(国際戦略担当副学長)、小山尚樹(入学課長)、長谷川誠仁(大学院課長)、真弓昭(研究振興課長)</p> <p>事務局:入学課、大学院課、研究振興課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画1.	→		→			
中期計画2.	→		→			
中期計画3.			→			→
中期計画4.	→					→
2021年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 留学生受入れのための体制づくりのための調査研究	<p>①他大学における受入れ体制を調査</p> <p>◆今年度中に本学と学科構成が似ている医療系大学を対象に、受入れ体制の実態を調査する。</p>					
2. 留学生の受入れから管理全般を担当する専門部署の設置検討	<p>①留学生の受入れから管理まで一元的に行う部署の設置を大学に要望する。</p> <p>◆現在の事務局はすべて兼務で行っているため、専任で国際交流業務を担う部署の設置を大学に要望する。</p>					
3. 中期計画1、2を踏まえた事業の実施	(本内容は2023年度から策定する。)					
4. 学科単位での学生の海外体験の機会の拡充	<p>①既に学生の海外研修を実施している鍼灸サイエンス学科、医用情報工学科、看護学科の3学科については、活動を継続する。</p> <p>◆これら3学科における国際交流活動継続に活用できるように、今年度中に渡航手続(安全情報、予防接種等の情報含む)や危機管理に関するマニュアルを策定する。</p>					

	<p>②学生の国際交流が未実施である学科への支援</p> <p>◆教員レベルで繋がりのある大学等を一つの切り口として委員会で検討し、コロナウイルス感染症の終息を踏まえ、2024年度末には全9学科のうち5学科で学生を含めた交流が実施できるよう進めていく。</p> <p>③薬学研究科のコンケン大学との協定に基づく学術交流を推進する。</p> <p>◆2016年10月にコンケン大学と締結した教育・研究連携に係る協定の有効期間が今年10月で満了となるため、同協定を更新する。</p>
--	---

中期計画と第1－1期の活動計画

重点分野8：信頼性の高い事業継続可能な組織体制の改革						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:4】 教職員の資質向上</p> <p>【基本方針:7】 大地震など災害への備え</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実効性のある中期的な計画の策定・実行・評価（PDCA サイクル）による大学価値向上と確実に推進するため、教員と事務職員等が、教職協働体制のレベルアップを図る。 2. 危機発生時における体制の整備と、BCPを含めた各種マニュアルの更新を行う。 3. 教職員に対し、ハラスメント防止対策などの社会的責任、法令遵守に対する意識を向上させる研修会等を行うことで、組織の体制整備のレベルアップを図る。 						
<p>責任者: 豊田長康（学長）</p> <p>分担者: 鈴木秀幸（法人事務局長）、村田尚久（大学事務局長）、勝田能成（学生課長）、防災危機管理対策委員会、矢田智樹（人事・厚生課長）</p> <p>事務局: 学生課、人事・厚生課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
2021年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 実効性のある中期的な計画の策定・実行・評価（PDCA サイクル）による大学価値向上と確実に推進するため、教員と事務職員等が、教職協働体制のレベルアップを図る</p>	<p>① 数値データをもとに議論する文化の醸成とどうすればできるかを考えるクリエイティブな考え方を身に着ける仕組みを構築し、研修する。</p> <p>② 仮説を立てて実証・検証するという思考法を事務職員が理解し、身に着ける仕組みを構築し、研修する。</p> <p>③ 教員のエフォート率を概ね「教育（専門担当科目、学科共同教育）50%」「研究（専門分野研究、教育研究）25%」「全学組織活動（初年次教育、多職種連携教育、委員会、入学募集活動、社会貢献活動、公共機関等との共同研究など）25%」とバランスを整えていく。</p>					
<p>2. 危機発生時における体制の整備と、BCPを含めた各種マニュアルの更新を行う</p>	<p>① 防災・危機対策管理委員会を中心に、危機発生時における対応の他、危機管理対策本部の体制（危機レベルに応じた構成員、指揮・命令系統）や、事業継続も含めたマニュアルの作成及び、随時更新を行う。</p>					

<p>3. 教職員に対し、ハラスメント防止対策などの社会的責任、法令遵守に対する意識を向上させる研修会等を行うことで、組織の体制整備のレベルアップを図る</p>	<p>①ハラスメントに対する理解を深めるための研修会はもちろんのこと、相談窓口となる部署のレベルアップを図る研修会を計画する</p> <p>◆ハラスメントに関する教職員全体研修会および相談窓口となる部署の研修会を実施する。(2022年3月迄)</p>
--	---

中期計画と第 1 - 1 期の活動計画

重点分野 9 : 財務基盤の充実						
<p>【基本方針:全体】 経営体制の充実・強化、財務基盤の充実、補助金等の外部資金の獲得</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学納金収入の増加のための取り組みの実行と検証 2. 教育設備・研究設備等に関する補助金収入の増加のための取り組みの実行と検証 3. 研究に関する補助金や大学のシーズを活用した外部資金の獲得のための取り組みの実行と検証 4. 経費削減に関する取り組みの実行と検証 						
責任者:鈴木秀幸(法人事務局長) 分担者:宮崎和裕(管財課長)、岩田善光(経理課長)、真弓 昭(研究振興課長)、 経費削減推進委員会 事務局:経理課						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	—————					—————▶
中期計画 2.	—————					—————▶
中期計画 3.	—————					—————▶
中期計画 4.	—————					—————▶
中期計画 5.	—————					—————▶
2021 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学納金収入の増加のための取り組みの実行と検証	①新学科の設置等により学生数を増やし、財務基盤の中心となる学納金収入を増加させる(前年度比+1.5%を目標) ②2022 年 4 月保健衛生学部救急救命学科の設置や、教育研究設備・施設整備の中期計画等を盛り込んだ財務計画を作成する(2021 年 12 月)					
2. 教育設備・研究設備等に関する補助金収入の増加のための取り組みの実行と検証	①学科ごとの教育設備における中長期計画内容の共有化 ◆学科予算打ち合わせ時における各学科からの「今後 6 年間における学科内教育設備整備計画」により共有化(2022 年 2 月) ②各学科の中期計画に則った教育設備に対する補助金や ICT などの施設設備に対する補助金の募集状況に応じた申請を行う ◆上記「学科内教育設備整備計画」に基づき申請 ・X線CT撮影装置の補助申請(2021 年 6 月) ・遠隔授業推進活用事業補助金申請(2021 年 6 月)					

	<p>◆6月および12月に行われる事業整備計画調査（文部科学省）についても「学科内教育設備整備計画」に基づき回答</p>
<p>3. 研究に関する補助金や大学のシーズを活用した外部資金の獲得のための取り組みの実行と検証</p>	<p>①科研費以外で民間企業等からの研究補助金の獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆民間企業等から公募案内のあった研究補助金について全教員にメールリストで周知する。 <p>②教員の研究活動に資するための財務基盤として、大学の研究シーズを活用した受託・共同研究費や寄附金の獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ホームページを改定し、教員の研究成果や取組事例を紹介するページを開設する（2022年3月迄） ◆研究シーズ集（冊子体）をWEB版に変更する（2022年3月迄） ◆イノベーション・ジャパン等の産学連携イベントに参加し、学内の研究成果を積極的に発信する。 ◆学内の研究成果等について、企画広報課と連携して社会的メディア（新聞・テレビ・ラジオ等）を活用した情報発信に努める。
<p>4. 経費削減に関する取り組みの実行と検証</p>	<p>①全学で取り組むための経費削減推進委員会による省エネルギーに関する啓発活動の継続的実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆省エネルギー意識向上のための講演会の開催（年1回） ◆サムスエコ通信の発信（年6回） ◆新たな経費削減メニューの提案（2021年10月） <p>②経費削減意識の向上を目的とした活動の継続的実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆電気基本料金の見直しによる電気料金の削減（2021年4月 年間790万円削減見込） ◆電話回線の状況見直しによる不使用回線の廃止（2021年6月） ◆白子キャンパスの給水引込管の径見直しによる水道料金（2021年7月 年間160万円の削減見込） ◆年間エネルギー使用量の原油換算値における前年比1%以上の削減の実施（2021～2026年）

中期計画と第1－1期の活動計画

重点分野 10：4つのポリシーの実質化						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <p>1.4つのポリシーの運用に関するPDCAサイクルの仕組みを実行する。 2.ディプロマポリシーの達成度をチェックし、向上させる仕組みを実行する。 3.各学科のアセスメントポリシーに基づいて、自己評価委員会を通して点検・評価し改善する。</p>						
<p>責任者:豊田長康(学長) 分担者:教育改革委員会、教育質保証委員会 事務局:教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
2021年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 4つのポリシーの運用に関するPDCAサイクルの仕組みを実行する	<p>①教育目標を踏まえたディプロマポリシーを学生に周知する。 ②カリキュラムマップを基に、ディプロマポリシーとの一貫性を学生に周知する。 ③4つのポリシーと教育課程との整合性を教育質保証委員会が点検し、教育改革委員会へ状況を報告する。</p>					
2. ディプロマポリシーの達成度をチェックし、改善点を検討する。	<p>①卒業生予定者に、学修成果に関する達成度を測定するアンケートを実施し、蓄積している調査結果と併せて分析し、改善点等について、教育質保証委員会で検討する。 ②教育方針の改善点等について、年度末に教育質保証委員会は、教育改革委員会へ報告する。</p>					
3. アセスメントポリシーについて、教育質保証委員会を通して確認する。	<p>①学生のPDCAを促し、教育効果の有用性を確認するために、教務システムSUMS-POの学修カルテ機能を活用し、学生自らの学修行動を振り返り、担任教員によるコメントも含め、学生の主体的な学習を促すために仕組みを構築する。 ②反転授業の推進、オンライン環境下での試験実施方法の開発など新たな学修評価の在り方を開発する。</p>					

中期計画と第1－1期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（放射線技術科学科）						
<p>【基本方針：1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針：5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 						
<p>責任者：放射線技術科学科長 分担者：大井一弥（国家試験対策WG副委員長）村田尚久（大学事務局長）、大塚紀寿（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局：教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
2021年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</p>	<p>1. 教育環境の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学生教育用に準備された最新医療機器を使い、臨床現場に則した学内実習を実施し教育内容を充実化する。そのために、計画的な機器の更新・管理運用を行う。令和3年度には、CT装置の更新を目指す。 ② 学生の自己学修時間や場所の確保等について環境整備をする。 <p>2. 質の高い臨床実習を実現するため、改善点として以下を計画する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① オンラインミーティングシステム（ZOOM）を活用し、全臨床実習指導施設（約70施設）を対象とした臨床実習報告会および次年度臨床実習説明会を開催する。実施時期は10月および2月頃を予定する。 ② 3年次5月に臨床実習希望施設調査を行うとともに教員との協議面談等を経て臨床実習指導施設を仮決定する ③ コロナ禍を踏まえ、3年学内実習においてはオンラインと対面のハイブリッド方式を導入するとともに、年度末までに学内教員により対面での実技試験を導入する。 ④ 臨床実習中、毎日の適度な目標設定とポジティブフィードバックおよびリフレクションを促す独自の「臨床実習ノート（ポートフォリオ）」を作成し、効果的な経験学習を促進する。 					

	<p>3. 教授方法のさらなる改善</p> <p>① 学修サポートシステムの教員活用を進める。特に今年度は、learningBOX等のイーラーニングを用いた予習復習支援教材を導入する。2021年度は専門科目の80%以上で導入することを目指す。</p> <p>② すべての演習・実習科目においてルーブリックを評価尺度として用い、総合評価に反映させる。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>1. 1年次の早期に臨床等で専門の資格を持って活躍、あるいは社会人大学院生として活躍する診療放射線技師と接する機会をつくり、将来のキャリアデザインを描く手がかりとする。医療人底力実践基礎I学科プログラムにて企画する。</p> <p>2. 初期教育の一環として専門職にふさわしい態度等を学ぶ機会をつくる。マナー・ノンテクニカルスキル教育を2-3年生対象に実施する。特に、学内実験実習においては、必ず取り組む。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1. 目標値 受験者あたりの合格率 90% HR18年入学生あたりの合格率 75%</p> <p>2. 指導内容 教員が、学生全員を合格に導く熱意と気概を持ち、下記指導を徹底する。</p> <p>① 1年次より国家試験への危機感を高め、出題傾向を意識した授業を実施する。</p> <p>② 1年生、2年生は、学年進級時の模擬試験を実施、3年生は年2回の模擬試験実施、4年生は年6回の模擬試験を実施する。</p> <p>③ 4年次模試の結果から、後期以降、成績不振者を月1回の模擬試験の結果から抽出し、対策授業とは別に補講を実施する。補講では毎回、課題を暗記させ、口頭試問またはイーラーニングによりアウトプットさせる。これを反復学習することにより、習慣と知識を定着させる。</p> <p>④ 担任教員による学修状況の確認と学修指導を行う。1-3年生は年3回以上、4年生は月一度以上の面談を実施する。</p> <p>⑤ 4年後期、週一日、国試対策講義を開講する。</p> <p>⑥ 模擬試験後の担任個人面談を実施し、生活状況の改善や国家試験学習支援（個人指導）を行う。</p> <p>⑦ 模擬試験成績不振者の保護者へ成績通知を行う。</p> <p>⑧ 10月以降模擬試験や9月以降国家試験対策講義（放射線科学特論）では、座席を模擬試験成績順（成績下位者から順に前方）に指定席を設定する。</p> <p>⑨ 国家試験直前の12月下旬から1月下旬にかけ、補習を実施する。</p> <p>⑩ 各教員が国家試験の専門分野に精通し、国試全体も把握するため、毎回の模擬試験作成時に出題基準を明示する。</p>

中期計画と第1－1期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（医療栄養学科・管理栄養学専攻）						
<p>【基本方針：1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針：5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 						
<p>責任者：熊取 厚志（学科長）、太田 伸生（専攻長）</p> <p>分担者：三浦 俊宏（教務委員）、大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）、村田尚久（大学事務局長）、大塚紀寿（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長）</p> <p>事務局：教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
2021年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</p>	<p>1. アchievementテストの充実 学生の学年進行に応じた学習のアウトカムを確認するために、3年次に導入しているアチーブメントテストの更なる拡大充実を図る。</p> <p>2. 臨地実習の評価 臨地実習の重要性に鑑みて、受け入れ施設との十分な事前協議を行うとともに、派遣学生の習熟度評価と実践的能力向上の取組みを継続する。習熟度の評価指標であるアチーブメントテストを臨地実習の履修要件にすることを目指す。</p> <p>3. 実習試験の導入と拡大 実習の効果をより可視化し適正な評価を行うために、実習の評価法としてレポートによるだけでなく、実習試験を実施するようにしてきた。この方向性を継続拡大し、学生の自主的学習態度の一層の涵養に務める。</p> <p>4. IR分析結果を活用した教育改善 IR室との連携をもって、学生の教育および生活の問題点を解析し、早期の解決を図るための検討資料とする。</p> <p>5. 教育の保証委員会 “教育の質保証委員会”を設置して教員がシラバスに沿った教育を進めていることを評価確認し、必要に応じて助言する体制確立をめざす。</p>					

<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャリアプランニング授業の構築 学生の将来のキャリアプランニング充実を目的として、卒業生を含む学内外の人を招き、モチベーション向上につながるような授業形式の懇話会／セミナーを計画する。 2. 早期導入教育の充実 1年生底力教育を利用して、管理栄養学専攻の立案に基づいて病院や福祉施設での管理栄養士の仕事を見学する機会を設け、早期の段階から学生の向学心高揚を目指す。 3. リメディアル教育の実効性向上 受験者数減少が進み、入学者の学力レベル低下が懸念されるためリメディアル教育の充実は喫緊の課題である。対象となる学生にリメディアル教育への参加を促し、成果としての学修到達度を担任教員が把握してモチベーション向上をはかるように指導する。 4. 成績不振者に対するトコトン教育の充実 1～3年の後期終了時に成績不振者に対し、2者ないし3者面談行を行い、IR推進室の分析結果や学習ポートフォリオ等を活用し、振り返りによる自己認識を行わせ、目的意識・学習意欲を高めさせると共に、LearningBoxなどの学修支援システムを活用した学習方法などの指導・支援を行う。 5. グループワークやアクティブラーニングの導入 グループワークやアクティブラーニングなどをカリキュラムに導入して、学生が相互に学習することで向学心高揚につながるような機会を作る。 6. 国家試験対策学習支援の充実 国家試験対策の柱となる模擬試験の結果を常時モニターし、模擬試験では終了後直ちに振り返り学習の時間をとることにより、学生が自ら集中すべき学習項目の確認できるようにする。また、成績不振者には集中して補講や個別指導、及び保護者を交えた面談などを行い、従来から進めてきた学生個々へのきめ細かな指導を継続する。
<p>3. 臨床検査学専攻との交流の推進</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学科教務委員会 学科内に教務委員会を立ち上げているので、問題点を両専攻の枠を超えて協議する体制をより充実させる。 2. 両専攻の合同演習の実施 <ol style="list-style-type: none"> ① 栄養指導：管理栄養学専攻4年生が臨床検査学専攻3年生に栄養指導を行う。 ② 検査説明：臨床検査学専攻4年生が管理栄養学専攻3年生に検査説明を行う。 3. 両専攻学生の相互交流活動支援 両専攻学生の相互交流活動（球技大会や合同バーベキュー大会など）を支援する。 4. 他専攻の専門科目を聴講する機会を設ける 両専攻学生が互いの専門授業を聴講する機会を設ける。両専攻学生に益する栄養相談関係の授業や臨床検査医学演習（R-CPC）などをZoomなど聴講しやすい形式で設定する。 5. 市民公開講座の実施 両専攻教員による公開講座を開催し、市民に本学科の研究、

	<p>教育を紹介するとともに、この地域の健康、福祉の向上に貢献する。</p> <p>なお、上記 2-5 は新型コロナウイルス感染流行状況によっては計画検討にとどまることもありうる。</p>
<p>4. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1. 国家試験の現役受験者の合格率と入学者あたりの合格率向上 新卒者の管理栄養士国家試験合格率の目標は 100%とする。また、進路変更や病気休学の学生を除いて、入学者の標準年限内の合格率は 90%を目標とする。</p> <p>2. 国家試験対策 カリキュラムとして 4 年生前期の総合演習 II、及び医療栄養学特別演習で国家試験対策の指導を行う。</p> <p>3. 3 年生以下の学生対象の国家試験対策 3 年生に対しても国家試験問題に接する機会が持てるようにして、学習の意義を具体的に意識させる。また、3 年生の模擬試験受験を積極的に指導する。</p>

中期計画と第1－1期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（医療栄養学科・臨床検査学専攻）						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 						
<p>責任者:熊取厚志（医療栄養学科長・臨床検査学専攻長） 分担者:熊取厚志（医療栄養学科長・臨床検査学専攻長）、吉子健一（臨床検査学専攻教務委員）、 大井一弥（国家試験対策WG副委員長）村田尚久（大学事務局長）、大塚紀寿（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局:教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
2021年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</p>	<p>1. アーチブメントテスト(学習達成度確認試験)の充実 アーチブメントテストを共用試験に位置づけて1～3年次を実施し、各テストで一定以上の得点を取ることを臨地実習履修条件に加える仕組みを検討する。</p> <p>2. OSCE(臨地実習前の技能修得到達度評価)の充実 OSCE確立に向け臨床検査技師養成所指導ガイドラインに基づき、現在の評価内容や評価方法を改善する。</p> <p>3. IR分析結果を活用した教育改善と成績不振学生の早期抽出法の確立 教育の質保証委員会のIR委員及びLMS委員を中心にIRデータを解析し、その結果を基に教育内容・方法を改善する。また、成績不振学生とその予備軍を早期に抽出できる仕組みの確立に向けた検討を行う。</p> <p>4. 検査説明のための技能の育成 今後、臨床検査技師に求められる検査説明を行う為の技能の育成に関して、主に以下の二点からアプローチする。 ① 臨床検査医学演習(R-CPCを含む)の充実:授業評価と試験を基にさらなる充実を図る。 ② 検査説明演習授業の確立:3-2-②参照。</p>					

	<p>5. 新規臨床検査学教育コアカリキュラムの実施と検証 2022年4月の入学生から適用されるコアカリキュラムについて、各科目の実施状況を評価し改善する。</p> <p>6. 教育の質保証委員会 教育質保証委員会内規に基づき、当専攻における「トコトンできるまで教育(SUMS方式学修支援メソッド)」の確立・実施に向け教育に関連する課題について議論し、改革・改善を図る。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>1. 早期臨床体験実習 1年前期の医療人底力実践(基礎I)で、病院見学に加えOB・OGとの意見交換の場を設け、臨床検査技師としての将来像をイメージさせる。</p> <p>2. キャリアプランニング授業の構築 学内の教員や外部講師(各種現場で働く臨床検査技師など)による講演を木曜日1限などに実施するキャリアプランニング授業の構築について具体的な検討を行う。</p> <p>3. 成績不振者に対するトコトン教育の充実 1～3年の後期終了時に、成績不振者に対し2者ないし3者面談を行う。その際、IR推進室の分析結果や学習ポートフォリオなどを活用し、振り返りによる自己認識を行わせ、目的意識・学習意欲を高める。また、learningBoxなどの学修支援システムを活用した学習方法について指導・支援を行う。</p> <p>4. 学会参加 3年生後期の臨床検査医学演習の授業に三重県医学検査学会の参加を組み入れて、向学心を高める。</p>
<p>3. 管理栄養学専攻との融合の推進</p>	<p>1. 学科教務委員会 両専攻の教育に関連する課題について、専攻の枠を超えて議論し、改革・改善を図る。</p> <p>2. 両専攻の合同演習の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 栄養指導: 管理栄養学専攻4年生が臨床検査学専攻3年生に栄養指導を行う。 ② 検査説明: 臨床検査学専攻4年生が管理栄養学専攻3年生に検査説明を行う。 <p>3. 両専攻学生による相互交流活動の支援 これまでと同様に、両専攻学生による球技大会やバーベキュー大会などを支援する。</p> <p>4. 他専攻の専門授業を聴講する機会を設ける 両専攻学生に益する栄養相談関係の授業や臨床検査医学演習(R-CPC)を、Zoomなどを用い聴講しやすい形式で実施する。</p> <p>5. 市民公開講座の実施 両専攻教員による公開講座を開催し、市民に本学科の研究、教育を紹介するとともに、この地域の健康、福祉の向上に貢献する。</p> <p>但し、2～5に関しては、COVID-19の状況から今年度は実施が困難であることが予想される。その場合は実施に向け計画をブラッシュアップする。</p>

<p>4. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1. 国家試験の現役受験者の合格率と入学者あたりの合格率向上</p> <p>① 臨床検査技師国家試験の現役受験者の合格率目標値を100%に、入学者(進路変更を除く)あたりの合格率目標値を90%に設定し、以下2.3.の取り組みを行う。</p> <p>② 成績不振の学生に対しては、補講や面談といった人手による手厚いケアを行い、モチベーションを含めて成績の向上を図る。</p> <p>2. 全教科に共通する効果的な教育方法の構築</p> <p>定期試験や模試結果の詳細な分析結果に基づき、全教科に共通する効果的な教育方法を構築する。</p> <p>3. eラーニングシステムの構築</p> <p>記憶した知識のアウトプットが定着するまで、トコトンを繰り返すためのツールとしてeラーニングシステムの構築を進める。</p>
---	---

中期計画と第1－1期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（リハビリテーション学科・理学療法学専攻/理学療法学科）						
<p>【基本方針：1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針：5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 						
<p>責任者：リハビリテーション学科長 分担者：大井一弥（国家試験対策WG副委員長）村田尚久（大学事務局長）、大塚紀寿（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局：教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
2021年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>オンライン臨床実習ポートフォリオの導入により、実習の進捗確認の効率化、学生指導の密度を高める。これにより学力不足等による実習進捗上の問題は早期に明らかとなるため、実習指導者との連絡を密にし、必要に応じ、オンライン、対面での助言、指導を実施する。</p>					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>学習支援：講義の進捗に合わせて国家試験準拠問題を課題として取り組ませ、その結果を基に助言、指導する 動機付け：初年次教育の中に、障害者、家族の談話に傾聴する時間を設ける。</p>					
3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	<p>模擬試験を実施、成績不良者への再学習指導として、学習塾的な補講による繰り返し学習を行わせる。最初は4年生から開始し、順次低学年への拡大を検討する。新卒国家試験の合格率100%、及び入学者あたりの合格率75%を目標とする。</p>					

中期計画と第 1 - 1 期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（リハビリテーション学科・作業療法学専攻）						
<p>【基本方針：1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針：5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 						
<p>責任者：リハビリテーション学科長 分担者：作業療法学専攻長、大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）村田尚久（大学事務局長）、大塚紀寿（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局：教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
2021 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>コロナ禍において病院実習が困難となっている。そのため、Virtual Reality (VR) の教材を作成し、病院などの臨場感ある実習に取り組めるように工夫している。臨床実習では臨床実習の支援システムを 2022 年度から取り入れ、学校と臨床現場との密な交流に役立てることを計画している。このことで臨床実習での問題を出来るだけ早く、解決できるように実習を援助する。</p>					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>学習支援：講義・実習の試験問題に国家試験に関する問題を 3 分の 1 出題することにより支援する。 向学心の高揚：現場の臨床で働いている先生や作業に精通している芸術家、障がい者を有した者を特別講師に招き、学生へ専門家としての向学心の高揚への取り組みを行なう。</p>					
3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	<p>合格率は全国平均を上回る合格率を確保したい。そのため、1 年から 3 年次にかけて 3 科目（生理学、解剖学、運動学）の模試を行い、学習効果の確認と成績不良者においては Luning-box を用いた振り返り、国家試験ノートの作成を課している。また、4 年次の「総合演習」では模擬試験を実施して指導する。</p>					

中期計画と第1－1期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（医療福祉学科・医療福祉学専攻）						
<p>【基本方針：1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針：5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 						
<p>責任者：医療福祉学科長 分担者：大井一弥（国家試験対策WG副委員長）村田尚久（大学事務局長）、大塚紀寿（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局：教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
2021年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>教員一人ひとりが「とことんできるまで教育」の意味を深く理解・認識し、また、個々の学生の達成度や習熟度を見極めたうえで、すべての授業科目において社会福祉士・精神保健福祉士国家試験を意識した授業内容を展開することで、学生や保護者のニーズに応えることができるように取り組む。</p>					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>学習支援に対する学生の意見・要望をくみ上げるシ様式を学科・専攻で独自で持ち、正確に把握・分析をすることで学習支援の体制に反映させる。</p> <p>心身に関する健康調査、経済調査、生活・就学の相談を細かく実施、総合的な支援を行うことで、昨年度休退学者1をゼロにする。</p>					
3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	<p>教育目標、カリキュラムポリシーを踏まえて、一層学生に寄り添い、週人数教育の特色を生かし、学生目線から教育を展開する。</p> <p>個々の学生の理解度に応じたきめ細かな教育を展開し、国家試験まで切れ目のない支援を継続し、標準就業年度内社会福祉士合格率75%、精神保健福祉士合格率90%を目指す。</p>					

中期計画と第1－1期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（医療福祉学科・臨床心理学専攻）						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 						
<p>責任者: 医療福祉学科長 分担者: 臨床心理学専攻長、大井一弥（国家試験対策WG副委員長）村田尚久（大学事務局長）、大塚紀寿（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局: 教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
2021年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>公認心理師・臨床心理士養成を主とした本専攻・大学院では、臨床実践に適った援助姿勢と技法を身につけることと、そのバックボーンとなる様々な理論を学ぶことを基本方針とし、教育においては以下の点を充実させます。</p> <p>①学部教育では、患者・クライアントを生物・心理・社会的視点から理解できるような理論を修得し、社会性を育み、自己理解・他者理解を深めるように教育する。各講義担当教員は、この方針を学生に常に認識させるよう、講義中にも取り上げて指導する。</p> <p>②大学院進学希望者については、上記の能力の充実だけでなく、実践力を養うための現場経験（ボランティア、フィールドワークなど）を勧め、大学院進学の準備を行う。</p>					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>学年に応じた教育および指導を行う。</p> <p>①1年生には入学直後からスタディスキル教育を実施し、大学での学習に早く適応できるように指導する。</p> <p>②各講義担当教員は、学んだ理論が実践でどのように役立つのか具体的にイメージできるように教育を行う。</p>					
3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	<p>昨年度の公認心理師合格率は全国平均が 53.4%のところ本学は 66%であった。今後は 70%を目指す。</p> <p>①公認心理師受験については、大学院入学前に公認心理師試験問題（過去問）に沿って学部での学びを総復習するように指導する。</p> <p>②大学院生には、複数回の模擬試験受験を推奨し、早期から受験対策を指導する。</p>					

中期計画と第1－1期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（鍼灸サイエンス学科）						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 						
<p>責任者:鍼灸サイエンス学科長 分担者:大井一弥(国家試験対策WG副委員長) 村田尚久(大学事務局長)、大塚紀寿(就職・キャリア支援課長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					
中期計画 2.	→					
中期計画 3.	→					
2021年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</p>	<p>1 実習・実技教育の向上のための取り組み デジタル教材を活用して、収録した動画による学習、到達目標を確認するアクティブラーニング形式等を実施し、深い学習・技術の習得の向上をはかる。 2021年度は、準備期間として実技室の機器を更新と実技の動画内容を検討する。実技室のモニターの大型化、プロジェクターを高画質な4Kにアップデートし、視聴環境・内容を充実化、学習への理解、満足度を高める。動画は、取穴実習や臨床実習における内容について検討する。</p> <p>2 キャリア教育の充実 昨年度までに専門教育「鍼灸への誘い」による鍼灸師の職業観や将来像涵養を目標とした教育はほぼ完成した。下記、教育講演開催とキャリアプランの指導を強化する。 ① キャリア教育講演を年1回開催する。 ② キャリアプランを作成させ、個人面談での助言・指導に活かす。(2～4年生)。</p> <p>3 病院・クリニックへの就職支援 病院・クリニックの鍼灸治療の融合と協力の実態調査を行い、本学卒業生の病院・クリニックへの就職支援に取り組む。適応可能な希望者を病院・クリニックへ就させる。</p> <p>4 鍼灸スポーツトレーナー学専攻のフィールドワーク実施 スポーツトレーナー学および資格試験の知識と技術をアウトプットするフィールドワークを実施する。これまでに施設および実施内容について検討してきたが、コロナ禍の影響で活動は中止</p>					

	<p>された。今年度は、ワクチン接種後、感染状況が落ち着いた頃を見計らって実施する。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>1 学習目標：進級率 100%</p> <p>2 学習支援内容 学生との関わりとコミュニケーションを重視して下記内容を実施。</p> <p>① 出席および体調管理のチェックと指導 ② 課題提出状況の把握と指導 ③ 個人面談 ④ 定期試験前後のフォロー ⑤ Learning Box の活用</p> <p>3 意欲向上・交流促進のためのプログラムを計画 通年で開催してきた球技大会、取穴大会を含め、ワクチン接種後、感染状況が落ち着いた頃を見計らって実施を検討。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1 受験者あたりの合格率：100%、</p> <p>2 入学者あたりの合格率 2021 年度 66%、2022 年度 75%を目標とする。</p> <p>3 指導内容 教員が、学生全員を合格に導く熱意と気概を持ち、下記指導を徹底する。</p> <p>① 1 年次より国家試験への危機感を高め、出題傾向を意識した授業を実施。 ② 対策授業の指導を強化し、要点文集を段階的に暗記させ、全て暗記するまで確認試験を繰り返す。 ③ 成績不振者を月 1 回の模擬試験の結果から抽出し、対策授業とは別に補講を実施する。補講では毎回、課題を暗記させ、口頭試問によりアウトプットさせる。これを反復学習することにより、習慣と知識を定着させる。 ④ Learning Box の活用して隙間時間を利用した学習を促進。 ⑤ モチベーション維持・向上のために、定期試験後や補習終了後に個別面談を行い、学生との関わりとコミュニケーションを重視して国家試験まで一緒に取り組む。</p>

中期計画と第1－1期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（臨床工学科）						
<p>【基本方針：1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針：5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 						
<p>責任者：臨床工学科長 分担者：大井一弥（国家試験対策WG副委員長）村田尚久（大学事務局長）、大塚紀寿（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局：教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					
中期計画 2.	→					
中期計画 3.	→					
2021年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<ol style="list-style-type: none"> ①大学入学時に Early Exposure（病院見学、医療機器操作体験）を行い、初年次教育の充実を図る。 ②臨床工学技士の業務拡大を見据えた新カリキュラムについて学科内でカリキュラム検討委員を選出し、検討を行う。 ③4年前期・後期に開講される特別演習科目を学科全教員で担当し、国家試験対策を充実させる。 ④実習科目の実技試験は、ルーブリックを用いて評価を行い、実習科目の総合評価に反映させる。 ⑤学修サポートシステムの教員活用を進める。 					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<ol style="list-style-type: none"> ①GPAに基づいた学習指導計画を図ると共に、GPA 上位の学生を対象に早期の進路活動を促す。 ②欠席の多い学生に対して、担任から早期に連絡を取り、状況を把握する。 ③大学祭における学科発表の支援強化を行う。 					
3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	<ol style="list-style-type: none"> ①新卒学生の100%合格を目指し、入学者あたりの合格率は90%（48名/53名）を目指す。 ②GPA及び模擬試験によるクラス編成を行い、成績不振の学生を対象に前期から自習の義務付けと対策講義への出席を促す。 					

	<p>③各クラスの習熟度に対応した国試対策や学修サポートを行う。</p> <p>④頻出問題と必要最低限な基本問題の演習を繰り返し行う。</p> <p>⑤各教員が国家試験の専門分野に精通し、国家試験全体も把握している。</p> <p>⑥国家試験サポートソフトウェアの教員活用を進める。</p> <p>⑦早期から国家試験への意識を高めるために、3年次から全国统一模擬試験の受験を促す。</p>
--	--

中期計画と第 1 - 1 期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（医療健康データサイエンス学科/医用情報工学科）						
<p>【基本方針：1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針：5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 						
<p>責任者：医療健康データサイエンス学科長 分担者：大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）村田尚久（大学事務局長）、大塚紀寿（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局：教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					
中期計画 2.	→					
中期計画 3.	→					
2021 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>①教育内容の充実では、新学科のカリキュラムではデータサイエンスの基礎となるプログラミング能力を身につけさせるため、多数の授業科目でコンピュータ演習または実習を行いながら教育することになる。そこで、今年度はコンピュータ実習を含んだ授業科目を 15 科目以上に増やすための場所や施設の充実などの準備を行う。</p> <p>②教育方法・教授方法の改善としては、SUMS-P0、learningBOX などのオンライン教材を利用するための教材作成を行い、3 科目以上でオンライン教材の作成を実施し、教育効果の高いオンライン教材の作成に関する意見交換を実施する。</p>					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>①効果的な学習支援としては、授業の出席状況とレポートの提出状況を把握し、授業の理解状況を SUMS-P0、learningBOX などの学習支援システムを使用し、学期の途中に理解度を把握する。そして、成績不振者に対しては、個別学習支援を行い、トコトン教育を実施する。</p> <p>②向学心の高揚への取り組みとしては、学生が就職後の仕事についてイメージを持たせるために、様々な職場で働いている卒業生または経営者・管理者と意見交換できる授業科目（医療人底力実践 I（学科プログラム）、病院実習を含む）を今年度は 3 科目以上とし、今後で増加させる方向で検討する。</p>					
3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	<p>①本学科の学生の就職先は幅広い IT 分野またはデータサイエンスの利用分野であり、情報処理の基礎を身につけていることが必要である。そこで、情報処理技術者試験の「IT パスポート」（国家試験）を 2 年生の後期までに数年後には入学者あたりの合格率 80%（令和 2 年度の全国での平均合格率 50.8%）を目</p>					

	<p>指す。そこで、今年度は関係する授業科目間で試験内容・出題範囲・理解レベルの分担を明確にし、学生に合格することによる就職等でのメリットを理解させ、多くの学生が受験する雰囲気作りを行う。また「C B T 疑似体験ソフトウェア」などを使用し、C B T 試験に慣れるための体験をさせる。</p> <p>② 3年生からは進路の選択が始まるので、医療秘書技能検定試験、診療情報管理士、医療情報基礎知識検定、医療情報技師、情報セキュリティマネジメント(国家試験)、基本情報技術者試験(国家試験)、統計検定(3級、2級、データサイエンス基礎)などの国家試験や検定試験に関して、入学者当たりの1種類以上の試験に合格した合格率を卒業時までには70%にすることを目指す。</p> <p>③ 教育指導としては、統計検定の受験率、合格率を向上させるために、マークシートリーダー(OMR)を使用し、模擬試験を実施し、効果的な使用方法を検討する。またその他の国家試験、検定試験に対しても実施できるように準備を進める。</p>
--	---

中期計画と第1－1期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（薬学科）						
<p>【基本方針：1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針：5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 						
<p>責任者：薬学科長 分担者：大井一弥（国家試験対策委員会副委員長） 村田尚久（大学事務局長）、大塚紀寿（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局：教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					
中期計画 2.	→					
中期計画 3.	→					
2021年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<ol style="list-style-type: none"> ① 学生および保護者の一義的な期待は、留年／休学せずに薬剤師国家試験にストレートで合格することである。授業において国家試験を意識した内容も補足するように教員に求める。 ② 低学年（特に1年生）で、学修に必要な技能を身につけているかについて、学生個々の状況を確認（出席、課題提出などで判別）し、学年主任、学科長の監督の元で担当教員に対応させる。 ③ 低学年（特に1年生）で、学修環境の整備（学修に対する技能の習得）、学修習慣を付けさせるための授業復習をさせる環境の整備、定期的な学修成果の確認を実施する。 ④ 薬剤師国家試験合格後には、医療現場など社会で求められている薬剤師となることを目指している。そのために、教員には、教育の基盤として薬剤師の業務に関して必要な幅広い知識・態度・技能を身につけるための教育を提供するように促す。 					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<ol style="list-style-type: none"> ① 教育のツールの提供と共に、特に低学年層には、ツールを使いこなす知識や教員などに質問しやすい環境作り、あるいはそのための導入教育（薬学教育だけではなく、常識レベルの情報を提供する。）を実施していく。そのためには、教育専門部門である薬学教育センターを有効活用していく。 ② 高学年では、成績下位層に対してリメディアル教育を実施して、学力のレベルアップを行い、成績上位層に対しては、向上心を衰えさせない自学の幅を広げるためのコンテンツ提供を行っていく。 					

<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1, 2に基づき、学修のためのコンテンツ（学習ツール、授業に対するフォローコンテンツなど）を提供しながら、特に低学年にはそのコンテンツをしっかりと利用できるような環境作りを目指し、低学年での学力の底上げを行っていく。</p> <p>① 4年次の CBT 合格率および各学生の点数を薬剤師国家試験の1つの指標として、受験生 100%合格率および全ての学生が 70%以上の正答率となるように教育を行っていく。</p> <p>② 薬剤師国家試験の目標は、ストレート合格率の向上とし、薬学部新設大学で上位に入る 60%を当面の到達点とする。</p>
---	---

中期計画と第1－1期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（看護学科）						
<p>【基本方針：1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針：5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 						
<p>責任者：看護学科長 分担者：大井一弥（国家試験対策WG副委員長）村田尚久（大学事務局長）、大塚紀寿（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局：教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
2021年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
<p>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</p>	<p>①カリキュラム・ポリシーに沿ったカリキュラムマップ使用度を上げ、学生自身の学びの促進を方向づける。</p> <p>◆オリエンテーションでの具体的説明と前後期の担当学生の面談時に確認する。</p> <p>◆自身がこれまでに何を身につけ、何を学んでいくかを学生が主体的に理解できるようにする。</p> <p>②多様なメディア（learningbox、グループフォーム等）を用いてアクティブラーニングを推進する。</p> <p>◆反転授業を取り入れる。</p> <p>◆各回の授業での小テストやリアクションペーパー等による学生の理解度を高める。</p> <p>③授業評価アンケートに対応し、授業内容の改善を推進する。</p> <p>◆アンケート回収率を高める。</p> <p>◆学生のニーズに応える教育内容と教育方法を具体的に実施する。</p> <p>④「教育の質に係る客観的指標」と看護学科の現状の教育内容を精査し、必要とされる内容を組み込む。</p> <p>◆「教育の質に係る客観的指標」の内容を精査し、看護学科教育</p>					

	内容との適応状況、不足内容を点検する。
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>①成績不振者、休学者への学修支援計画の継続、評価、改善を行う。</p> <p>◆学科教務委員会、学生委員会、学年担当と担当教員が連携し、成績不振者および休学者の学習支援計画を作成する。</p> <p>◆学習支援計画の評価と改善を行う。</p> <p>②入学前教育（推薦入試入学予定者で希望者）とリメディアル教育を充実し、入学生の学習能力を向上する。</p> <p>◆現状を評価する。</p>
3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	<p>①看護師・保健師国家試験合格率 100%を維持し、入学者あたりの合格率では、92%を維持する。</p> <p>◆1年次から系統立てた国試対策を実施し、評価する。</p> <p>②国家試験の合格に向けて、学生、教員、保護者が一丸となって取り組む。</p> <p>◆保護者説明会、3者（保護者・学生・教員）面談を有効活用し、成績不振者の学習支援に保護者の協力を得る。</p>